

| | | | | | | |
|--------------------|---|---|----|---------------|--------|------------|
| 科目名 Course Name | 子どもの理解と援助 Support for Children Based on Appreciation | | | ナンバリング No. | K4-010 | |
| 年次 | 2年 | 期別 | 後期 | 単位数 | 1 | 授業形態 演習 |
| 担当者氏名 | 秋山真奈美 | | | | | |
| 連絡先(質問等) | 講義棟3階研究室かメールで対応。オフィスアワーは火・土・授業・会議時間を除くものとする。 | | | | | |
| 必修/選択 | 選択(保育士養成課程必修) | | | | | |
| 関連 DP | DP1,DP5 | | | | | |
| 授業の概要と到達目標 | <p>「発達心理学」等で学んだ乳幼児の発達についての知識を基に、より具体的で応用的な、発達を引き出すための支援の仕方について学ぶ。本教科は演習であり、経験から得た知識を学友に紹介する機会を設けるので、これらの知見を共有し、演繹的に活用できるようになることを期待したい。</p> <p>従って到達目標としては、</p> <p>①子どもの心身の発達や学びの実態に応じた援助を行うことができるようになる。</p> <p>②子どもの経験や学習過程を理解するための基本的な考え方や具体的な方法を身につけることができるようになる。</p> <p>③保育者としての援助や態度の基本を身につけることができるようになる。</p> | | | | | |
| 授業の方法 | 講義の他、ディスカッションやグループワーク等の演習を多く含む。 | | | | | |
| 学習成果 | L01 | | | | | |
| | L02 | | | | | |
| | L03 | ①様々な背景を持つ子どもの発達に関する知識を現実場面で活用できるよう、学んだことと身近な事象とを結び付けることができる。 ②保育の専門家としての知見に、心理学的知識を根拠として挿入できる。 | | | | |
| | L04 | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | レポート課題は添削の上返却される。課題としてのフィードバックの機会はそれくらいだが、日頃より積極的な質問を歓迎する。 | | | | | |
| 教科書/参考図書 | 教科書:『新版 保育のための教育心理学』坂原明〔編〕(おうふう)。および『子ども家庭支援の心理学』本郷一夫〔編〕(建帛社)。「教育心理学」・「子ども家庭支援の心理学」に共通使用をすることで、新規購入の必要は無い。参考書・資料は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。 | | | | | |
| 履修上の留意点やルール等 | 講義はもとより、ディスカッションや教育実験に対して主体的且つ真剣に取り組むことを期待する。私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は「授業参加態度」において減点の対象とする。教育を志す者として、真剣に受講すること。事前・事後学習時間の目安は各回 45 分相当とする。 | | | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | | | |

| 成績評価の方法と基準 | | | | | |
|------------|--|---------|-----|-----|-----|
| 評価の領域 | 評価基準 | 学習成果の割合 | | | |
| | | L01 | L02 | L03 | L04 |
| 授業参加態度 | 他者の話に真剣に耳を傾け、また、積極的にディスカッション・グループワークに参加し、講義や発表への疑問については臆さず質問すること。 | | | 20 | |
| レポート/作品 | ①事例研究法と面接法の組み合わせによるセッションにおける所見、②特別な配慮を必要とする子どもへの援助、の2本を提出する(各30点満点)。アクティヴ・ラーニングの成果を反映した内容であることを期待する。 | | | 60 | |
| 発表 | | | | | |
| 小テスト | | | | | |
| 試験 | 多問型の試験を行うので、専門用語の概念を正しく学習しておくこと。 | | | 20 | |
| その他 | | | | | |
| 合計 | | | | | 100 |

| 回数 | | 授業計画 |
|----|---------|---|
| 1 | 授業内容 | オリエンテーション:授業の方法と計画の説明 保育における子ども理解の意義 子ども理解に基づく養護および教育の一体的展開 |
| | 事前・事後学習 | 与えられた課題事例を分析し、「十分に理解しないのでこの事例に臨んだら、どのようなことが想定されるか」を多角的に列挙する。 |
| 2 | 授業内容 | 子ども理解の方法:アセスメントの重要性 子どもの行動の観察 |
| | 事前・事後学習 | 保育者として可能なアセスメントの方法をまとめる。 |
| 3 | 授業内容 | 子ども理解の方法:子どもの話を聴く 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり インテーク 記録の取り方 ジェノグラム |
| | 事前・事後学習 | 友人から相談を受けた際(半期中のいつでもよい)に、インテークの手続きを意識して関わってみる。そしてそういった手順の有無で何が変わるのかを考察しておく。 |
| 4 | 授業内容 | 子ども理解の方法:保育の中での工夫と応用(実験法の実際) チームで事例を考える 評価と省察 組織の取り組み 職員間の対話 スーパービジョン コンサルテーション |
| | 事前・事後学習 | 保育の内に実証的視点を取り込むことで、学級経営上どんな効果が期待されるかを考察し、ノートにまとめる。 |
| 5 | 授業内容 | 子ども理解の方法:保護者との情報の交流 事例研究法と面接法の組み合わせによるアクティヴ・ラーニングの実践(※次週、レポート提出) |
| | 事前・事後学習 | グループワークの成果をレポートにまとめる。 |
| 6 | 授業内容 | 特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助:自閉症スペクトラム児への支援 |
| | 事前・事後学習 | 特別な配慮を必要とする子どもについてまとめ、最終レポート作成準備を進める。 |
| 7 | 授業内容 | 特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助:自閉症スペクトラム児(高機能型)への支援 |
| | 事前・事後学習 | 特別な配慮を必要とする子どもについてまとめ、最終レポート作成の準備を進める。 |
| 8 | 授業内容 | 特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助:学習障害児への援助 |
| | 事前・事後学習 | 特別な配慮を必要とする子どもについてまとめ、最終レポート作成の準備を進める。 |
| 9 | 授業内容 | 特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助:注意欠陥多動性障害児への援助(※次週、レポート提出) |
| | 事前・事後学習 | 特別な配慮を必要とする子どもについてまとめ、最終レポートを完成させる。 |
| 10 | 授業内容 | 子ども理解の視点:愛着と社会情緒的コンピテンス 愛着の生物学的メカニズム 愛着の形成と発達 インターナル・ワーキング・モデル |
| | 事前・事後学習 | 愛着の発達についてまとめる。 |
| 11 | 授業内容 | 子ども理解の視点:環境としての専門的養育者の存在 愛着障害への対応 |
| | 事前・事後学習 | 愛着障害についてまとめ、その対応を考察する。 |
| 12 | 授業内容 | 子ども理解の視点:社会情緒的コンピテンスを育むために 子ども相互の関わりと関係づくり 集団における経験と育ち |
| | 事前・事後学習 | 集団経験が子どもにもたらすものについてまとめる。 |
| 13 | 授業内容 | 子ども理解の視点:葛藤やつまずきを活かす 保育の環境の理解と構成 環境の移行や変化へのフォロー |
| | 事前・事後学習 | ワークシートを利用しながら、大人と子どもの様々なライフイベントへの認識の相異を比較する。 |
| 14 | 授業内容 | 子ども理解と発達援助:発達課題に応じた援助と関わり |
| | 事前・事後学習 | これまでの授業内容をまとめ、期末考査に備える。 |
| 15 | 授業内容 | 子ども理解と発達援助:発達の連続性と就学への支援 |
| | 事前・事後学習 | これまでの授業内容をまとめ、期末考査に備える。 |